平成24年度(社)日本地すべり学会 第51回研究発表会及び現地見学会

いのちを守れ

道民講演会

自然災害の過去を学び今を生きる

ー災害予知、防災情報の活用ー

第1部 18:00～19:00
「更なる減災は可能か?・・噴火危機とジオパークの現場からの考察」

講師:NPO法人環境防災総合政策研究機構
(CeMI)理事、北海道大学名誉教授

岡田 弘(おかだ ひろむ)

活火山の噴火防災に関する第一人者。2000年の有珠山噴火に際しては1週間前より噴火を予知し、人的被害をゼロに抑えた。現在はCeMI(NPO法人環境防災総合政策研究機構)にて防災社会の構築を目指し、情報発信・啓発活動に取り組んでいる。

第2部 19:00～20:00
「自然災害と防災情報 報道の現場から」

講師:気象キャスター、防災士

菅井 貴子(すがい たかこ)

全国各地、放送局のニュース、レポート、教育番組等を担当。NHK札幌放送局を経て、現在は、UHB(北海道文化放送)気象キャスター。「U型テレビ」出演中。2009年「なるほど!北海道のお天気」、2011年「北海道のお天気ごよみ」(ともに北海道新聞社)を出版。北海道環境審議会委員。

平成24年8月28日(火) 18:00～20:00
(受付・入場 17:30～)

会場:札幌市教育文化会館 1F小ホール(札幌市中央区北1条西13丁目)

・道民講演会は、どなたでも無料で参加いただけます。
・参加をご希望の方は、下記事務局までメール、または、FAXにてお申し込み下さい。
・募集は先着順にて350名の受付を行います。なお、定員に達した場合はお断りする場合がありますのでお早めにお申し込みください。

(社)日本地すべり学会　第51回研究発表会及び現地見学会実行委員会　道民講演会担当事務局
〒064-0807　札幌市中央区南7条西1丁目13 第三弘安ビル7F
明治コンサルタント株式会社　清水 順二
TEL 011-562-3066　FAX 011-562-3199
E-mail:dominkoen@meicon.co.jp

参加費無料

主催:(社)日本地すべり学会　後援:北海道、北海道開発局、北海道森林管理局

（社）日本地すべり学会主催　道民講演会

自然災害の過去を学び今を生きる　－災害予知、防災情報の活用－　のご案内

昨年３月の震災から早くも１年が経過しました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げるとともに、さらなる復興をお祈りいたします。

(社)日本地すべり学会では毎年「研究発表会」を開催していますが、今年は 8 月 28～31 日にかけて北海道札幌市で行う予定です。当学会では社会貢献の一端をかね道民の皆様への啓発を目的として、研究発表会に先立ち講演会を行います。

第１部では、地元北海道にて火山防災に尽力されております岡田弘氏に、減災について講演いただく予定です。また、第２部では、気象キャスターとしてTVでもおなじみの菅井貴子氏に、報道の立場から見た自然災害や防災情報について講演いただく予定です。

私達の暮らす北海道も、たびたび洪水・土砂災害、火山、地震災害など様々な自然災害に見舞われています。このような環境下では、私達は災害について正しく理解し、ひとりひとりが防災意識を継続して持ち続けていくことが大切です。本講演会は、このような防災意識を啓発するうえで、皆様にお役立ていただけるものと思います。多くの方からの参加お申し込みをお待ちしております。

－　講　演　概　要　－

第１部 「更なる減災は可能か？・・噴火危機とジオパークの現場からの考察」（　岡田　弘氏　）

あの３．１１の未曾有の大災害で生き残った多くの方たちから、私たちは本質的な減災指針を教えてもらった。「常日頃から学び、備えており、その時、危機感をもって、直ちにベストの行動をとることができたかどうか」が、生死を分ける鍵だったのだ。

噴火災害でも状況は似ている。歴史を振り返ると、かつては観測や情報は皆無、警戒行動もない暗黒の時代がただ長く続いていた。しかし、科学が生まれ最近になってようやく監視と警戒の両輪が確実に回り、著しい減災効果が生まれ始めている。世界で、最近約 30 年で約 20 万人が、火山災害の直撃から生き延びたという見積もりもある。雲仙でも規制域外で犠牲者は出なかったし、2000 年有珠山噴火でも、77 噴火と異なり、人々は自ら安全行動をとった。

平穏な時に何をなすべきか？この地球がどうなっているか、そこで我々はどう暮らしているか、地球の恵みを享受しながら、将来に備えてしまおうという試みを、我々は変動帯のジオパークの展開に期待している。科学がより信頼され、より頼もしく思われる時代を更に切り開いていきたいものだ。

第２部 「自然災害と防災情報　報道の現場から」（　菅井　貴子氏　）

「昔に比べて、雨の降り方が変わった。」、近年、よく耳にします。ただ、北海道の年間降水量をさかのぼって調べても、大きな変化は見られません。しかし、一度に降る雨の量が多くなっています。統計から判断すると「降るときは、一気に降る！」という降り方に変わったようです。地域によって、大雨の頻度にばらつきがあり、大雨警報も、地域によって、基準を変えているように、災害対応の仕方も、町ぐるみで変える必要もあるでしょう。

防災、減災対策として、気象予報の精度も、一層の向上が必要です。的中率が完全ではない予報情報を伝える際に、「見逃し」より「空振り」にウエイトを置いている現状もあり、予報が外れる空振りが続けば、視聴者にとっての信頼度低下に繋がるリスクもあり、情報提供サイドの課題でもあります。

最前線の報道現場から、今後、災害情報に期待されること等をお話しします。

平成 24 年度（社）日本地すべり学会研究発表会　道民講演会　参加申込書（FAX専用）

参　加　者　氏　名	参　加　者　氏　名

申込み先　(社)日本地すべり学会　第 51 回研究発表会及び現地見学会実行委員会　道民講演会担当事務局　清水

明治コンサルタント株式会社　(FAX): 011-562-3199　(E-mail):dominkoen@meicon.co.jp